

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1069 2009年4月号

## もり 四国銀行との連携による多様な森林づくり活動



四国森林管理局では、  
四国銀行と連携して、高  
知県香美市の国有林にお  
いて、無花粉スギ、少花  
粉スギを植栽しました。

【詳細は2頁に掲載】



「枯れないで、育ててね」と約六〇名が植樹に参加

**四国銀行との連携による多様な森林づくり活動**  
 無花粉スギ、少花粉スギを植樹  
 〔指導普及課・嶺北森林管理署・森林技術センター〕



四国森林管理局では、四国銀行（青木章泰頭取）と連携して、三月七日に、高知県香美市の穴内川ダムの湖畔にある立割不寒冬山国有林（嶺北森林管理署管内）において、無花粉スギ、少花粉スギを植樹する森林づくり活動を行いました。

この活動は、近年、国民的な課題となっているスギ花粉症対策の取組の一環として、また、四国銀行が地方銀行有志と連携して取り組んでいる地域の森づくり（日本の森を守る地方銀行有志の会）を支援する取組として実施したものです。

当日は、約六〇名の行員とその家族の方が参加し、はじめ



に、森林内と森林以外の土壌を比較した水源かん養機能の実験をしてみました。森林内の土壌は、水を流してもきちんと浸透するのに対し、森林以外の土壌は、表面を流れる水が多く、浸透しないその違いに驚いていました。

また、植樹箇所は、森林技術センターの「皆伐跡地における針広混交林化への更新技術の開発」の試験地であり、その取組内容について説明しました。

その後、通常のスギと無花粉スギ、少花粉スギの違いについて説明するとともに、植樹の方法について説明し、一一一本の



無花粉スギ、少花粉スギを植樹してもらいました。

参加者は、初めて植樹を行う人が多いにもかかわらず、協力し合いながら短時間で済ませてしまいました。

最後に、四国銀行の青木頭取から、「今後も、地域の企業の一員として社会貢献を果たしてしていくため、このような環境保全活動を継続していきたい。」との挨拶があり、森林づくり活動を終えました。

**平成二十年度国有林モニター会議を開催**  
 〔企画調整室〕

二月二十三日、四国森林管理局において、「平成二十年度国有林モニター会議」を開催しました。

国有林モニターは、国有林野

事業の運営等について幅広い国民の意見、要望等を聴取し、これらを開かれた「国民の森林」に相応しい管理経営に役立てるため、四国在住の二十六名の方に依頼しています。

会議では、出席された十一名の国有林モニターの皆様と、国有林モニターとなった感想や国有林に期待すること等について、活発な意見交換を行いました（主な意見等は次のとおり）。

○子どもに森林での体験学習の機会を作って欲しい。

↑四国局では夏休みの期間を「環境教育推進月間」とし、高知市内の延べ八百人の子どもたちを対象に森林教室等を行っています。また四万十川森林環境保全ふれあいセンターでも、出前授業や国有林をフィールドとして森林教室等を行っていきます。今後とも森林環境教育に力を入れていく所存です。

○剣山周辺の国有林における歩道や道標等の管理については、どこに相談すれば良いのか。

↑国有林内でお気づきの点があれば、森林管理署等へご相談下さい。剣山周辺の整備については、既設の古い看板等を中心に新しい看板に更新することや、歩道整備等を計画しています。

○小田深山の黒川溪谷等の貴

重な天然林は残して欲しい。

↑四国の国有林では、基本的にヤナセスギを除き、天然林の伐採を行っていません。貴重な天然林については適切に管理していく考えです。

○花粉症には医療面だけではなく環境面からの対策も必要だ。

↑厚生労働省、農林水産省、林野庁、林木育種センター等が連携し、発生源対策として、スギ・ヒノキ林からの広葉樹林化、針広混交林化やスギ・ヒノキの品種改良等に取り組んでいます。

四国局としても無花粉スギ等一一一本の植樹を計画（三月七日に実施済）しておりますが、植栽後の花粉の発生状況に関するデータ等を収集し、今後の対策に役立てていく考えです。

○国有林モニターとなってからマスメディア等で森林・林業をテーマとするニュース・番組に注目するようになった。

○森林の働きが非常に重要なものであると改めて認識した。

○間伐や下刈の体験をしたかった。

この会議で頂きました国有林モニターの皆様の見や感想等については、「国民の森林」としての管理経営に活かして参ります。



検討委員会の様子

林生熊系保護地域(愛媛森林管理署管内)、鷹取山植物群落保護林及び、ゆすはら「郷

**保護林評価のための検討委員会を開催**  
 保護林の現状評価と今後の保全・管理を検討(指導普及課)

四国森林管理局では、保護林の設定目的に照らした機能評価に必要なデータを収集し有識者からなる検討委員会において現状について評価を行うこととして、必要な措置を行うため、平成十九年度から「保護林モニタリング調査」と「保護林評価のための検討委員会」を実施しています。

その二十年度の検討委員会を三月十三日に局で開催しました。今年度は、管内二十五箇所の保護林のうち、平成二十一年度及び二十二年度に地域管理経営計画等を策定する森林計画区内の保護林を対象に、石鎚山系森

林生熊系保護地域(愛媛森林管理署管内)、鷹取山植物群落保護林及び、ゆすはら「郷土の森」(四万十森林管理署管内)、石立山植物群落保護林、西熊山植物群落保護林(高知中部森林管理署管内)の五箇所でモニタリング調査を実施し、委託業務受注者の(財)日本森林林業振興会高知支部から調査結果等について説明しました。

有識者からは、○鳥類調査等については、網羅的に行わなくともアンブレラ種としての猛禽類を対象に行えば餌を含めた生態系が見えてくる。これは、動物・昆虫類についても同じである(石鎚山)。○昆虫類調査については、調査手法を非捕獲的手法による直接観察法としているが、捕獲しないと正確に同定できない(石鎚山)。○両生類の調査も必要である(石鎚山)。○トイレが少なく、また、登山道以外への植生の踏み込みが見られ、全体としてオーバーユースになっている。保護と利用のあり方について検討すべきである(石鎚山)。○保存の対象であるビヤクシンが含まれておらず、次回からはビヤクシンを含めて調査すべきである(石立山)等の意見が出されました。

これらの意見については、今後のモニタリング調査の実施方法や保護林の保全・管理への反映等について検討を行うこととされています。

土の森」(四万十森林管理署管内)、石立山植物群落保護林、西熊山植物群落保護林(高知中部森林管理署管内)の五箇所でモニタリング調査を実施し、委託業務受注者の(財)日本森林林業振興会高知支部から調査結果等について説明しました。

有識者からは、○鳥類調査等については、網羅的に行わなくともアンブレラ種としての猛禽類を対象に行えば餌を含めた生態系が見えてくる。これは、動物・昆虫類についても同じである(石鎚山)。○昆虫類調査については、調査手法を非捕獲的手法による直接観察法としているが、捕獲しないと正確に同定できない(石鎚山)。○両生類の調査も必要である(石鎚山)。○トイレが少なく、また、登山道以外への植生の踏み込みが見られ、全体としてオーバーユースになっている。保護と利用のあり方について検討すべきである(石鎚山)。○保存の対象であるビヤクシンが含まれておらず、次回からはビヤクシンを含めて調査すべきである(石立山)等の意見が出されました。

これらの意見については、今後のモニタリング調査の実施方法や保護林の保全・管理への反映等について検討を行うこととされています。



挨拶する中山局長

三月十四日、高知ちばさんセンターにおいて、「第四回高知もくもくランド二〇〇九」が開催されました。

この催しは、県民に高知県の木造住宅の良さ、県産材の良さを知ってもらうため、木材・木造住宅関連産業が一堂に会し、多彩なイベントによりPRするもので、当局においても共催するとともに、木工教室のブースを設置しました。

オープニングセレモニーでは、来賓挨拶として中山局長が、「地域材利用を促進していくためには、関係者が連携して取り組んでいくことが重要。当局においても、先般、設計士や消費者等

**第四回高知もくもくランド二〇〇九**  
 親子で木に触れあい(指導普及課)

木工教室では、壁掛け、箸置きづくりを行いました。ブースの場所が会場入口のそばであったことから、来場者が必ず通り、ほぼ終日、多くの親子連れで賑わいました。午後には、壁掛けの板が無くなってしまい、子どもたちは、残りのパーツを使って自由に作っていました。親子で木に触れ合う有意義な一日になったのではないかと考えています。

を交えた『地域材利用促進のためのシンポジウム』を開催するなどの取組を行ったところ。今回のイベントは、正に川下の関係者が一堂に会して行うものであり、盛会裏に行われることを祈念するとともに、今後も連携して取り組んでいきたい。」との挨拶を行いました。

木工教室では、壁掛け、箸置きづくりを行いました。ブースの場所が会場入口のそばであったことから、来場者が必ず通り、ほぼ終日、多くの親子連れで賑わいました。午後には、壁掛けの板が無くなってしまい、子どもたちは、残りのパーツを使って自由に作っていました。親子で木に触れ合う有意義な一日になったのではないかと考えています。



木工教室の様子



(社)高知県森と緑の会主催による「春の緑の街頭募金」が、四月十二日、高知市の中央公園及び帯屋町筋で行われました。出発式の後、中山局長、川上計画部長をはじめボランティアスタッフらが、「緑の募金にご協力をお願いします」と、大きな声で道行く人々に募金を呼びかけました。当日は、初夏のような天候で、帯屋町筋には普段以上に人通りが多い中、子どもからお年寄りまで多くの方々が足を止め、たくさんの方々の善意が寄せられました。

**「春の緑の街頭募金」**  
 皆さんの善意を森林づくりに有効活用します(指導普及課)